

18年9月6日

各 位

会 社 名 アライドテレシスホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役会長兼CEO 大嶋 章 禎
 (コード番号：6835 東証第2部)
 問合せ先 経営企画部 精木 琢 己
 (TEL：03-5437-6007)

平成18年12月期中間(連結・個別)業績予想および
 通期(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ

平成18年5月12日付「平成18年12月期第1四半期財務・業績の概況(連結)」および平成18年2月20日付「平成17年12月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました平成18年12月期の中間および通期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

(1)連結業績

①中間期連結業績予想数値の修正(平成18年1月1日～平成18年6月30日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	28,200	—	100	50
今回修正予想(B)	27,500	△610	△970	△2,220
増減額(B-A)	△700	—	△1,070	△2,270
増減率(%)	△2.5%	—	—	—

※前回は営業利益の予想は発表しておりません。

②通期連結業績予想数値の修正(平成18年1月1日～平成18年12月31日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	70,500	—	1,330	570
今回修正予想(B)	59,780	1,840	1,330	50
増減額(B-A)	△10,720	—	—	△520
増減率(%)	△15.2%	—	—	△91.2%

※前回は営業利益の予想は発表しておりません。

(2)個別業績

①中間期個別業績予想数値の修正(平成18年1月1日～平成18年6月30日) (単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たりの 期末配当金
前回発表予想(A)	3,394	148	74	—円—銭
今回修正予想(B)	3,950	80	△3,600	—円—銭
増減額(B-A)	556	△68	△3,674	—
増減率(%)	16.4%	△45.9%	—	—

②通期個別業績予想数値の修正(平成18年1月1日～平成18年12月31日) (単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たりの 期末配当金
前回発表予想(A)	6,721	228	114	1円00銭
今回修正予想(B)	7,890	80	△3,360	—円—銭
増減額(B-A)	1,169	△148	△3,474	—
増減率(%)	17.4%	△64.9%	—	—

(3)業績予想修正の理由

①連結（当社および連結子会社43社）

現在アライドテレシスグループは、世界各国に43社を擁し、各々がその地域に適切なネットワーク環境を提供しております。こうしたグローバル展開は、ある地域の市場が停滞しても、他の地域で補い合うことができるというメリットがあります。当社グループでは確実に次世代を担う「IPトリプルプレイソリューション」を全面的に取り組んでおります。

当中間期の売上げおよび営業利益が予想を下回る結果になりました。その理由としましては、欧米及び日本のレガシー製品（従来製品）販売が当初予想していたほどの伸びが見られなかったことが理由であります。しかしながら、現在、IPトリプルプレイ市場で活況を呈している欧米市場では、約2,000億円の商談をすでに行っており、その内約300億円のコミットメントをいただいております。

一般消費者向け製品の売上は、競争が激化する中、営業力とサポート力により市場シェア維持に努めてまいりましたが、当初予想ほどの伸びは見られませんでした。

また、下記個別業績予想修正の理由の通り、米国子会社株式の評価引当金計上に伴い、連結調整勘定10億円の一括償却を行い、特別損失に同額を計上することといたしました。（下記個別業績予想における特別損失32億円の内22億円については、過年度の連結決算においてすでに取り込み済みであります。当中間期において未償却残高10億円を一括償却しております。）

②個別（アライドテレシスホールディングス株式会社単体）

IPトリプルプレイ市場は、他のIT市場と比較して成長しているものの中間期での売上げを牽引するまでには至っておらず、当社グループの計画値を下回る結果となりましたが、下期および来期においては、売上げ及び利益を十分確保できるものと予想しております。

当中間期において子会社株式の評価に関する会計基準に従い、米国子会社株式の評価引当金を設定し、特別損失に約32億円を計上することといたしました。

(4)今後のIPトリプルプレイ市場の見通し

米国のIPトリプルプレイ市場は、地域ネットワーク（特定エリア、大学、米軍基地等）向けの市場が活性化しており、今後当社グループの米国におけるIPトリプルプレイ関連の売上増加を牽引していくものと思われれます。欧州においては、パートナー各社との協力関係の更なる強化を図ることにより、引き続き順調な伸びが見込まれます。また、日本においても、IPトリプルプレイ成長の環境は整いつつあり、特に2011年の地上デジタル放送対応に向けて、CATV向けIPトリプルプレイ市場、およびマンションなどのインビル（建物内の閉じたネットワーク環境におけるIPトリプルプレイ・サービス）市場が着実に成長していくものと予想されます。

(5)当社グループの対応

当社グループは、グローバルな視点で再度、販売管理費の削減、製造コストの削減、研究開発オペレーションの効率化、在庫削減を実施し、通期の黒字化を目指してまいります。

以上

(注) この資料に記載しております業績等の数値は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。